

よぬだ ところどころ



第五十号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

山本南池の水抜き



写真は、山本南池が水抜きされた様子
令和三年十月一日に山本地区にある「山本南池」の水が抜かれ、「生き物にぎわうため池調査」がおこなわれた。このため池は、耐震補強が必要とされ、工事が行われる前に、この池に生息する生き物の調査がおこなわれたものである。

最近、池の「カイドリ・カエドリ」が全国的にテレビ等でも紹介されており、この池でもどの程度の外来種が生息しているのか注目されていた。その結果は、予想されたような外来種は多く見られず、在来種の生息環境が保たれていることが判明した。中日新聞令和三年十月二日報道
注 カイドリ・カエドリとは、河川や池の流入水を止め、保たれている水を排水することで、魚介類を捕獲する作業をいう。昭和中期までは小河川で子供がこれをおこない、遊びの一角を形成していた

下米田の土地は、飛騨川左岸の河岸段丘上であり、平坦地は砂礫層で覆われている。「米田のザル田」と言われたように、水田耕作ができる迄には多大な苦難があり、更に灌漑用の水が不足するため、背後の丘陵地には多くのため池が江戸期を中心に構築されていた。米田用水・木曾川右岸用水の完成とともに、ため池が不要となり、逆に上記のハザード図にあるように、ため池堰堤の決壊による災害防止が重要になってきた。新興住宅地は、ため池決壊による被害を受ける可能性があり、堰堤の補強工事が行われることになった。南部の上野池(皿池)に対して、水深が深く(谷池)、決壊時の危険性が高いのが特徴である。

